

科学技術・学術審議会 学術分科会 人文学・社会科学特別委員会(第10回) 令和4年3月28日

研究評価指標と研究成果公開一筑波大学の試み一

加藤和彦(筑波大学)

本資料の作成に当たっては池田潤 教授および 森本行人 URAの全面的な協力を得た。



2022年3月



背景



【世界大学ランキングの評価項目】

- ・世界大学ランキングの評価項目の中に論文の被 引用数にもとづく評価項目がある
 - THE (The Times Higher Education)
 - ·QS (Quacquarelli Symonds)
- Scopus等の論文・引用データベースがもととなっている
 - ・収録誌の多くは英語論文
 - · それ以外の言語で書かれた論文についてはほとんど収録されていない

現在用いられている研究評価指標

- Impact Factor (IF)
 - ·I論文あたりの平均被引用数に相当。
- Source Normalized Impact per Paper (SNIP)
 - ・分野による引用のされやすさの違いを考慮して被引用率を補正。
- Scimago Journal Rank (SJR), Eigenfactor, Normalized Eigenfactor
 - 「評判の高い」ジャーナルからの引用が、下位のジャーナルからの引用よりも重み付けされる。

これらは引用という側面から出発した指標

・引用という行為にポジティブな評価を認めるという前提については分野によって温度差がある

人文社会分野の学術誌

- 論文・引用データベースに収録されにくい
 - ・論文が日本語で書かれている
 - ・稿末に引用文献一覧を付けない論文も少なくない
- 引用数の集計がしにくい
- 従来の評価指標では見えにくく、評価の対象になって こなかった

筑波大学における取り組み

- 新たな研究評価指標iMD (index for Measuring Diversity) の提案
 - ・論文・引用データベースに収録されていない学 術も含め、分野や使用言語に関係なく算出でき る指標
- 筑波大学ゲートウェイ



人文社会系分野の研究成果 指標としてのiMD



【iMD®の考え方】



- ・「学内紀要<全国学会誌<国際学会誌」という評価 には、一般論として、多くの研究者の同意が得られ る
- ・これを定量化するには?
 - ・学術誌の著者所属機関の多様性を定量化
- •「質」は定量化できない。
 - ·IFも質ではなく話題性(引用の度合い)を定量化
 - ·iMDも質ではなく多様性 を定量化

(iMD®)

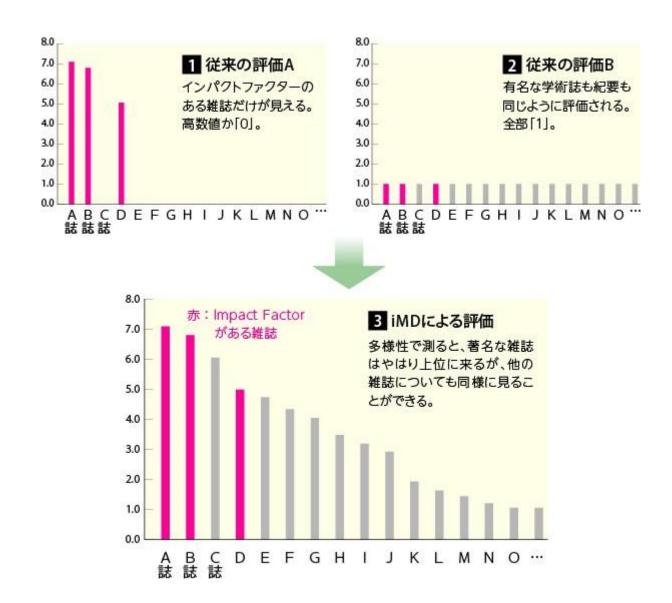


- ・学術誌を著者所属の多様性の観点から定量化 する指標
- 計算式

$$\log_n \left(\alpha \times C + \beta \times A \right)$$

- ·C:所属機関の国数
- ·A:所属機関数
- $\cdot \alpha \lor \beta$ はCとAの重み付け係数

* 特願2017-138751 「評価システム、評価方法及びプログラム」 発明者:池田潤(筑波大学教授)、森本行人(筑波大学URA)



出典:読売教育ネットワーク 異見交論57「人社系の逆襲」池田潤氏(筑波大学執行役員)・森本行人氏 (URA)より (https://kyoiku.yomiuri.co.jp/rensai/contents/57-ura.php)



筑波大学ゲートウェイ

https://ura.sec.tsukuba.ac.jp/utgateway

研究成果の出版は迅速かつオープンに制約なしで PUBLISH FAST. OPENLY. WITHOUT RESTRICTIONS.



誰におススメなのか

- 論文をすぐに出版したい
- 論文の認知度を高めたい
- 論文をScopus, PubMed, PMCに収録したい
- 論文のCitationを上げたい
- 論文の著作権を保有したい
- リーズナブルにオープンアクセスにしたい

【導入の経緯】

- •FI000 Research社から提案。
- 「研究と学問、そして言語には壁があってはならない」という理念を共有できた。
- 日本と世界の学術情報コミュニケーションに一石を投じたいと考えた。

【困難だった点】

- ・文系にとっては投稿料が高額→人文社会系が独自の投稿料支援プログラムを用意した。(全学的支援も検討中)
- 国内に代理店がなかったため、契約手続きに 手間と時間がかかった。

[FI000 Research]

現在の主流な査読モデル

投稿→非公開査読→出版(著作権は出版社、引用可)→有料購読

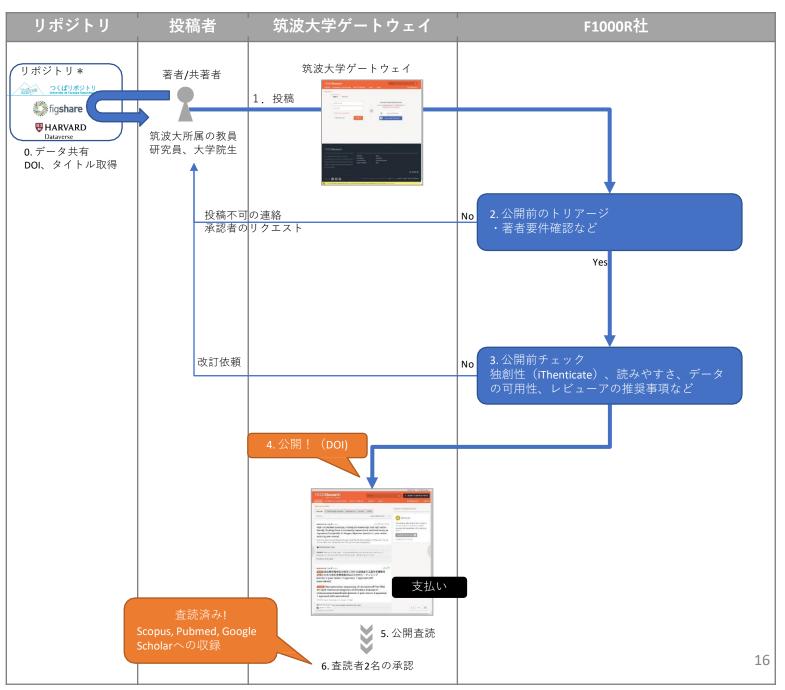
<u>FI000 Researchモデル:</u>

投稿→出版(著作権は著者、引用可)→無料閲覧→公開査読

ほかのモデル(いずれも伝統的モデルに依存):

オーブンアクセスジャーナルモデル: 伝統的モデル+無料閲覧 ハイブリッドモデル: 伝統的モデル+出版時に有料購読か無料閲覧かを選択 プレプリントモデル: 出版前自主公開 →無料閲覧(+伝統的モデル) リポジトリモデル: 伝統的モデル+出版後自主公開 →無料閲覧

投稿の流れ



1. 投稿

- 少なくとも共著者の中に筑波大学の教員が入っていれば投稿可
- 全分野=英語
- 人文社会系分野=英語だけでなく日本語でも投稿可

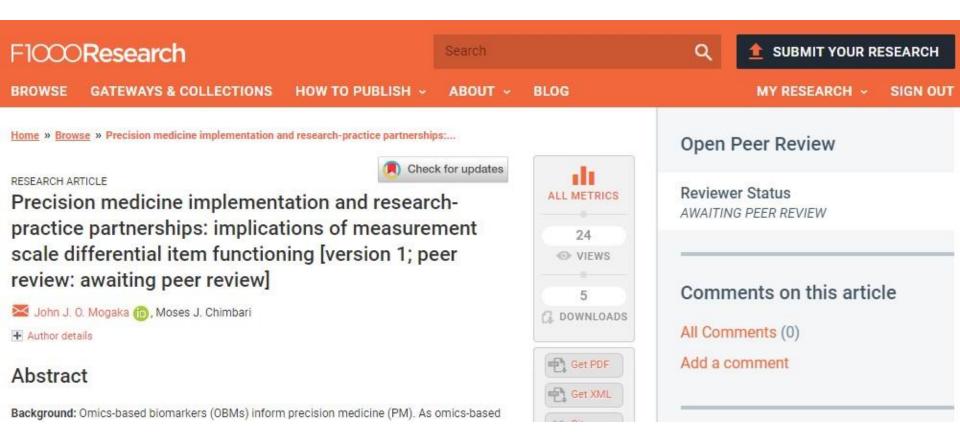
2. 公開前のトリアージ

著者要件確認など

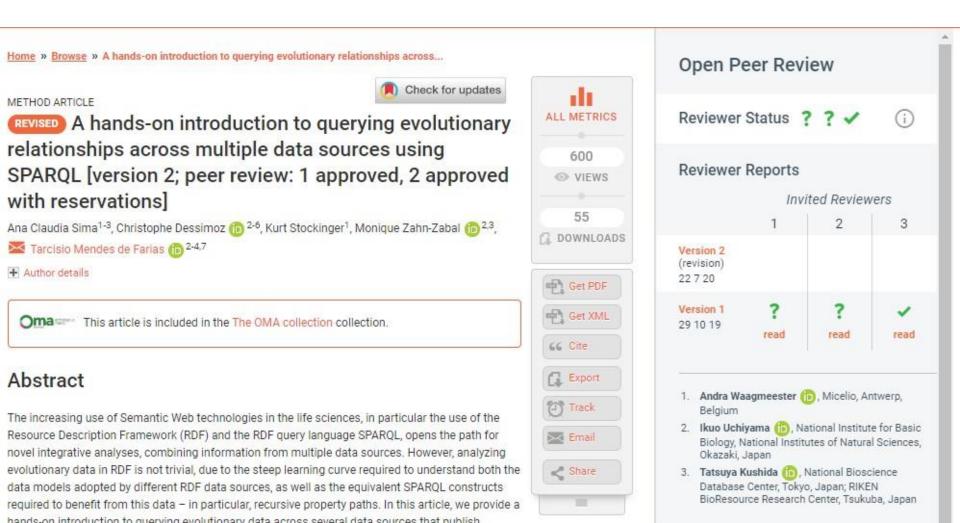
3. 公開前チェック

独創性(iThenticate)、読みやすさ、データの可用性、レビューアの推奨事項など

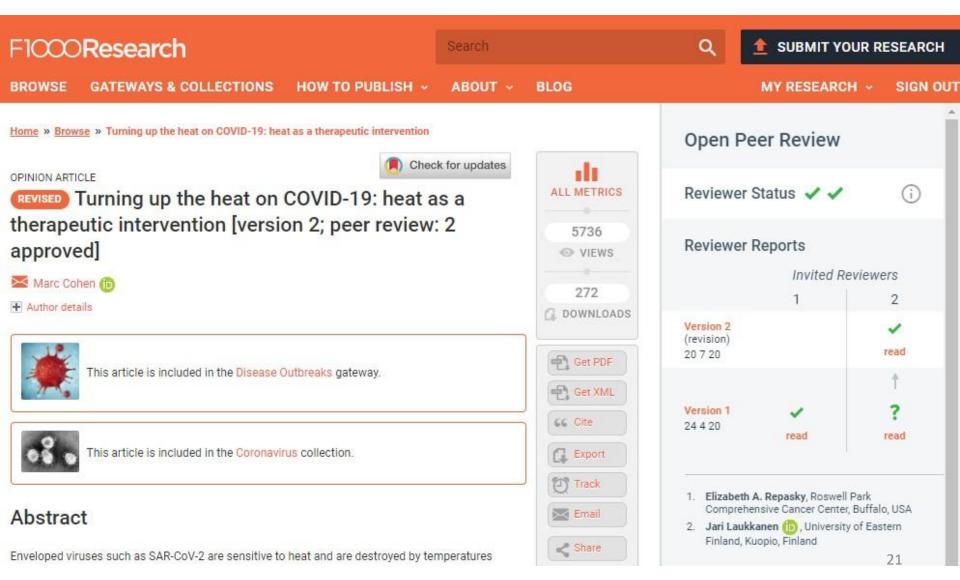
4. 公開!(DOI, Payment)



5. 公開査読



6. 査読者2名による承認 (Scopus, Pubmed, Google Scholar)



New article processing charges

